

齋藤聖美さん

ジェイ・ボンド東短証券株式会社代表取締役社長
東短インフォメーション・テクノロジー株式会社
取締役社長 ほか



【プロフィール】

日本経済新聞社、ソニー株式会社に勤務の後、ハーバード・ビジネススクールに留学、MBA取得。

モルガンスタンレー投資銀行の東京支店およびニューヨーク本社にエグゼクティブ・ディレクターとして勤務。

1992年4月に独立して国際ビジネスおよびベンチャー事業立ち上げのコンサルティング会社を設立。

インターネット・プロバイダー会社などを立ち上げた後、2000年4月に国債電子取引システム運営会社、株式会社ジェイ・ボンド（現ジェイ・ボンド東短証券株式会社）を設立、代表取締役社長に就任。

2011年4月から、東短インフォメーション・テクノロジー株式会社取締役社長を兼務。

2014年現在、昭和電工・東芝・かんぼ生命の社外役員を務める。

社会人になって（求人票に「容姿端麗のこと」と書かれる時代）

私は1973年の春、社会人になりました。当時4年制の大学を卒業する女性は少なく、求人票に堂々と「容姿端麗のこと」と書かれる時代でした。そのような環境の中で、幸いにも高い倍率を突破して希望の新聞社に就職が決まったのですが、女性は記者に採用されず、電算機本部というコンピュータ部門の配属でした。それでも根が楽天的なおかげで、そのうち編集部門に異動があるさ、と思い、社会人生活を楽しく始めました。しかし、世の中はそれほど甘くありません。異動の気配が感じられないと見切りをつけて、結婚退職をしましたが、これもうまくいかず、離婚。専業主婦が離婚しても失業保険は出ません。当時、24歳の女性が再就職するのは至難の業。お金はない、職はない。いやというほど、経済力のない人生の惨めさを思い知らされました。たまたま新聞でソニーが中途採用するという求人広告を見つけ、応募。採用されたときには、ほんとうに嬉しかったことを覚えています。

経済的自立なくしては幸せな人生は送れない

この経験以来、経済的自立なくしては幸せな人生は送れないと思うようになりました。専業主婦に憧れる女性に申し上げたいと思います。いつながあって専業主婦の地位を失うかもしれない。あるいは夫が健康を損ねたり、会社が倒産したりして生活基盤を失うかもしれない。そのときになってから就職しようとしても、スキルがなければよい職に就けるわけはありません。ですから若い女性には、ぜひ、働き続けて、経済的自立を目指してほしいと思います。

ソニーを辞めてアメリカの大学院に留学し、MBAの学歴を手に入れました。今でもそうかもしれませんが、女性採用にはリスクが生じます。なぜ男性を採用しないのか、女性で大丈夫なのか、と言われ、人事担当者は上司や周りを説得しなければなりません。立派な職歴があれば別ですが、そうでなければ、学歴や資格が強い武器になります。

「この資格・学歴を持つ人材が必要です」という一言は、水戸黄門の葵のご紋に等しい効力を持ちます。学歴のおかげで、私のキャリアも開けました。

いくつかの会社を転職したために、周りの人に「飽きっぽい性格だね」と非難されたことが一度や二度ではありません。しかし、会社は男性にはキャリアパスを用意しても、女性にはなかった時代。ステップアップのためには自分が動くしかなかったのです。ま、飽きっぽい性格であることは認めますが、今日でも理解のない上司の下に配属になり、先が見えてこないとき、転職は選択肢の一つだと思います。

仕事ほど楽しいものはない

長年働いてきて、仕事ほど楽しいものはない、と思います。いやなこと、辛いことは、当然山のようにあります。でも、それを乗り越えて何かを達成したときの満足感は、たどえようがありません。辛い山登りを続けて山頂に開けた景色を目にするのと同じ思いと言えればわかりやすいでしょうか。山は登るにつれて風景が変わっていきます。責任ある仕事をして上昇していかなければ、いつも同じ平地の風景だけを見ることになります。一步一步踏みしめて上に登り、開けた風景を見ること。それはとりもなおさず、視野の広い人間になることだと思います。ヒラ社員から管理職、役員、そして社長と歩んできた先輩からのメッセージだと思ってください。

女性だからといって、いわれのない差別をされたときには、「今に見ている」といつも思ったものです。何を「見ている」なのか、目標はなかったのですが、自分を振るい立たす魔法の言葉が「今に見ている」でした。そして、目の前にやってくるチャンスをつかみ、体当たりして、努力した結果が今日につながったと思います。大学を卒業した頃には、上場企業の役員になれるとは想像もしませんでした。

若い皆さん、ぜひ社会を変える一人に

夢を持つ、目標を持つ。それができればよいのですが、なかなかそんなものは見つかりません。自分の能力に自信が持てず、社会の障害の壁の厚さに嫌気がさす毎日。高い希望を持たば持つほど挫折感が強くなります。目の前のチャレンジから逃げずにたゆまぬ努力をすれば、気付いたときには「自分の」山の頂上近くにたどり着いているはずです。

家庭のこと、職場の男性の無理解。女性が働く環境はまだ整ったとはいえない状況ですが、少しずつ世の中は変化しています。それは、私たちが少しずつ変えてきたからです。若い皆さんにも、ぜひ社会を変える一人になっていただきたいと思います。

